

令和5年度 第3回恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

【開催日時】 令和6年2月8日（木）10:00～11:00

【開催場所】 恵庭市民会館 2階 視聴覚室

【出席者（敬称略・順不同）】

委員長／佐々木 保（恵庭市教育委員会教育支援課：青少年指導員）

委員／高桑 純（北海道文教大学）

高橋 和子（恵庭市PTA連合会）

中陳 法仁（恵庭市スポーツ協会）

河内 紀彦（北海道ハイテクACアカデミー）

安部 由里香（恵庭市小中学校校長会）

川村 香織（恵庭市小中学校教頭会）

北 幸法（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

事務局／教育長、教育部長、教育部次長、教育総務課長、教育総務課主査

オブザーバー／恵庭市保健福祉部健康スポーツ課長

※加藤 裕明委員（恵庭市社会教育委員）は所用により欠席。

【内 容】

※議事に入るまでの間、事務局が進行

1. 開会
2. 委員長挨拶（佐々木委員長）
3. 教育長挨拶（岩淵教育長）

※ここから、佐々木委員長が進行

4. 議事
 - 1) 令和6年度 学力・体力向上に係る予算（案）について
 - 2) 令和5年度 小学校体育授業支援事業の実施結果について
 - 3) 令和5年度 中学校体育授業支援事業の実施結果について
 - 4) 令和5年度 中学校における部活動指導員配置事業について
 - 5) 中学校における部活動の地域移行について
 - 6) 部活動の地域移行に関する検討部会のあり方について

●説明内容【要旨】 ※事務局より、資料に基づき説明。

- 1) 令和6年度 学力・体力向上に係る予算（案）について

「標準学力検査（NRT）の実施」については、636万4千円。令和5年度と同内容で実施を行うが、検査単価の上昇に伴い予算が増額となっている。

「英検IBAの実施」については、引き続き北海道教育委員会の事業として英検協会が受験料を負担するため、市の負担はなし。また、令和4年度から小学校6年生を対象として、小学校児童の英語力を把握し、授業改善を推進することで学習意欲を高め、中学校への円滑な導入を図るため、道教委の新規事業として「英検ESG」を実施している。令和6年度以降の実施について、現段階で正式な通知はないが、実施結果を精査し、必要に応じて事業の継続を求めている。

「ALT（外国語指導助手）の配置」については、2,183万2千円。

「外国語指導に係る地域人材の活用」については、212万3千円。

「教職員への研修及び指導体制の充実」については、662万7千円。

「ICT環境整備」については、2,659万3千円。

新たに、市内小中学校全校にデジタルドリルを導入するため、1,253万7千円。

「地域人材による学習指導」については、学校運営協議会への交付金など、186万2千円。

「部活動指導員の配置」については、1名増員する見込みで拡大し、218万2千円。

「小学校体育授業への支援」については、ハイテク指導者派遣費用として38万5千円。

また、「小学校水泳授業における民間プール施設等の活用」については、学校併設の市民プールの統廃合検討に伴い、令和4年度から実施している。令和5年度は、柏小学校、松恵小学校、恵み野小学校の3校の水泳授業を、市内の民間プール施設を活用して実施した。令和6年度も同様の内容で実施する予定だったが、島松小学校併設の市民プールが老朽化により当分の間使用できなくなるため、同校が民間プール施設を利用することも視野に入れて予算を増額している。金額は1,449万5千円。

（恵庭市保健福祉部健康スポーツ課より説明）

市内の市民プールについては、現在、柏小学校、松恵小学校、恵み野小学校の3か所について廃止を検討、稼働を休止しており、他の5か所が稼働している。そのうち島松水泳プールにおいて、令和5年度の開設にあたって指定管理者が点検を行ったところ、鉄骨屋根の腐食など早急に対応しなければならない状況が判明した。令和5年度は簡易修繕を実施し、なんとかプール授業に間に合わせたが、当初把握していたよりも急速に設備の劣化が進んでいるため、利用者の安全を最優先することとし、令和6年度は島松水泳プールを一時休止する。鉄骨屋根の修繕は構造の基礎にも関わるもので、建替えも視野に入れた改修について早急に計画を進めていきたいと考えている。この件については11月に開催さ

れた恵庭市スポーツまちづくり審議会において報告をし、承認を受けたもの。

今後は、廃止に向けて検討中の3つのプールの今後も含めた市民プールの在り方についても併せて、再度スポーツまちづくり審議会に諮り、結論を出していきたい。

【質疑応答要旨】

A委員：民間プールの利用については、具体的にどこを利用しているのか。

事務局：令和4年度から、市内にある「セントラルフィットネスクラブ恵み野」のプールを利用している。

B委員：実際に市民プールの指定管理者として関わっており、島松小学校のプールについては建て替えも含めて検討していると思うが、市民プールとして学校の授業等で子ども達だけ利用するものではなく、地域住民が広く健康づくりに利用できるような施設になるといいのではないか。

オブザーバー：市民プールとして稼働しているが、一般の利用者は伸びていない状況にあるため、大人も含めた一般市民の方が少しでも利用しやすい環境づくりを、既存のプールも併せて考えていきたい。

A委員：デジタルドリルというのは、どういったものか。商品は決まっているのか。

事務局：一般的な紙媒体のドリルやワークブックがデジタル化したものだが、例えばAI機能により回答傾向に応じて問題を作成していくことや、学習履歴をデータとして蓄積して個人の強み等を把握できるようになる。具体的なものはこれから学校の意向等を確認しながら選定していきたいと思う。なお、今年度には既に保護者負担や無償トライアルを活用して導入を進めている学校が多くなっている。

C委員：体育授業支援に関して、あまり予算として伸びていない印象を受けるが、どのように積算しているか。

事務局：学校からのニーズとしては非常に高いものであるとアンケート等でも認識している。積算上では実施回数の基準を設けているところだが、中学校での実施も含めて予算への反映に課題もあると認識している。この後、担当より事業の成果等に関して報告したい。

2) 令和5年度 小学校体育授業支援事業の実施結果について

児童の体力・運動能力の向上や、教員の指導力の向上を図るため、小学校の体育授業に市内の専門団体から外部指導者を派遣しており、「北海道ハイテクACアカデミー」に協力いただき、令和5年度は市内8校で、1月末までに計59回の授業を実施した。課題のある種目を選択して指導を受けるなど、学校のニーズや課題に応じた活用をしている。

各校からは「教員の指導力向上につながった。」「子どもたちの技術向上につながると感

じた。」という意見が出された。

児童の体力・運動能力の向上や、教員の指導力の向上に効果があり、各校のニーズも高いことから、令和6年度もハイテクから同程度の回数で指導員を派遣する予定。

3) 令和5年度 中学校体育授業支援事業の実施結果について

生徒の体力・競技力の向上や、教員の指導力の向上を図ることを目的として実施。「北海道ハイテクACアカデミー」に協力いただき、令和5年度は柏陽中学校2年生を対象に3回派遣し、実施種目は「体づくり運動」とした。

外部指導者による専門的な指導を受け、「体の動かし方や上手くなるためのコツがよくわかった。」と回答した生徒が多く、また保健体育の教員からも「専門性を活かした高度な技術指導を学ぶことができた。」との声などから、大変効果的であったという結果を踏まえ、令和6年度も継続して、中学校への指導者派遣を実施する予定。

4) 令和5年度 中学校における部活動指導員配置事業について

教員の部活動に係る時間の軽減による教育の質の向上や、生徒の技術向上、けがの防止、適切な練習法の導入など、部活動の質的な向上を図る事業。令和2年度より配置し、現在は恵庭中学校の女子卓球部に1名、恵明中学校の女子バドミントン部に1名、恵北中学校の女子バスケットボール部に1名、恵み野中学校の男子バレー部に1名を配置している。

部活動の質的向上が図られているほか、令和5年度に新規配置した恵み野中学校の学校全体の時間外在校等時間が13時間57分削減された月があるなどの効果を踏まえ、令和6年度は新たに、柏陽中学校のバスケットボール部に1名を配置する予定。市内中学校全校に配置となる。

5) 中学校における部活動の地域移行について

令和5年度、「恵庭市学力体力向上推進会議」の下に部活動の地域移行に関する検討部会を設置し、9月と12月に部会を開催した。

1回目の会議では、北海道教育庁の部活動地域移行担当者をお招きし、基本的な方針や道教委の取り組み等についてお話いただいた他、市内で部活動に携わる教職員へのアンケート結果が示された。

2回目の会議では、市教委から現状把握や各校の設置状況等について報告を受けたほか、市内の小学校5年生、6年生を対象に実施したアンケートの結果について協議した。

本市においては、現時点で休日の部活動にかかる組織及び体制が十分に整備されておらず、環境整備に一定の時間を要することから、令和6年度から7年度までの2年間を「地域移行検討・推進期間」に位置付け、令和6年度事業として、サッカー合同部活動を実践研究事業として展開し、休日の地域移行に向けた課題等の調査研究を行うが、現時点でも生徒の移動や練習時間の確保、更に冬季の練習場所の確保といったところが課題として示

されている。

教育委員会及び中学校と多様な組織や団体と連携した休日の地域クラブ活動の在り方検討を進め、段階的に学校と地域が一体となった新しい部活動の環境整備をしていく必要があると考えている。

また、合同部活動の研究事業の他、並行して地域移行に向けて課題となる地域の指導者発掘を進めたいと考えており、恵庭市スポーツ協会と連携し、「恵庭版運動部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」を設立し、運営を恵庭市スポーツ協会に委託する形で調整している。

6) 部活動の地域移行に関する検討部会のあり方について

部活動の地域移行に関する検討部会については現在、「恵庭市学力・体力向上推進会議」の下に位置付けられているが、より具体・個別な検討を行うという観点から、次年度より、「恵庭市学力・体力向上推進会議」の下部組織としてではなく、独立した組織として位置づけを行い、検討を進める予定。

5. 意見交換【要旨】

C委員：北海道ハイテクACアカデミーからの体育授業講師の派遣について、児童・生徒の体力がどれくらい向上しているのかということを見ると、効果の測定が必要ではないか。派遣回数についてもここ数年は増えていかず、4～5年同じことをやっているような印象を受ける。部活動の地域移行に繋がっていく話でもあると思うので、今後に向けて計画が必要だと感じる。

事務局：特に中学校では派遣回数が少ないため、イベント的な位置づけになってしまう可能性はある。来年度、再来年度に向けてどのように進めていくか検討していきたい。

C委員：経済的、家庭的な事情で地域のスポーツクラブを利用することが難しい子どもたちがいる。義務教育の体育授業に地域のスポーツクラブが入り込むことで体力や競技力の向上に寄与できると考えている。

D委員：部活動指導員について、現在は210時間という年間時数が設定されているが、時間が足りないと考える。休日3時間、大会の場合は4時間とのことだが、大会の引率だと朝8時から16時まで拘束時間があり、4時間を超えた部分はボランティアのような形になってしまう。確かに他の教職員の時間外勤務が大幅に削減された月はあったと思うが、年間を通して見るとまだ減っていない印象を受ける。

事務局：部活動指導員に関しては、当初より210時間という時間設定をさせてもらい、その条件で指導員を雇用し、学校に要望を確認しているため、現時点での対応は難しいと考えている。

D委員：他市では、顧問の役割を部活動指導員に完全に移行している例もあると聞く。部活動指導員が顧問を担うのであれば、やはり年間の時数をもっと増やしてほしいと考える。

B委員：「恵庭版運動部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」について、過去に同じような取り組みがあったが、うまく機能していなかった。ボランティア指導者にサポーターバンクへの登録をお願いしたいと考えた時に、教員のOBや、市の職員の存在が重要になると考えている。ボランティア休暇や、早出の制度等を活用することで部活動の指導ができると言ってくれる人が現れるのではないか。スポーツによるまちづくりの推進ということで協力をお願いしたい。

事務局：市では今年度から所属長が認める範囲でフレックスタイム制度を導入した。制度を活用することで、所属長が認める範囲で始業・終業の時刻を柔軟に決めることができる。サポーターバンクの登録が始まった際には、広く職員にも周知をしていきたい。

B委員：「部活動の地域移行に関する検討部会」について、部活動は運動系、文化系どちらもあるので敢えて運動部に限定していないものだが、令和5年度の部会において9割以上が運動部活動の話題となっている。文化系の部活動についてなかなか意見を汲み上げられないという状況が続いているので、今後、運動系と文化系で部会を分けるのかどうかについても検討が必要と考える。

6. その他

事務局：本年度の会議については、本日が最後となる。委員の皆様方には、本年度も貴重なご意見・ご提案をいただき、感謝申し上げます。いただいた意見は、今後の「学力・体力の向上」につながるよう、市教委・学校ともに取り組んで参りたい。次年度も、引き続き恵庭市の学力・体力の向上にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

7. 閉会